

日中韓FTA交渉

1 意義

- 主要な貿易相手国である中国(第1位、約21%)及び韓国(第3位、約6%)を相手とするFTA。3か国のGDP及び貿易額は、世界全体の約2割、アジアの約7割を占める。両国の取り込みは、我が国が経済成長を維持・増進していくためにも不可欠。RCEPを上回る付加価値をどれだけ付与できるかが焦点。
- 日中韓3か国の経済関係の強化を通じ、この地域の安定・外交関係の強化に貢献。

2 経緯

- 2012年 5月 日中韓サミット(於:中国・北京)において、日中韓FTAの年内の交渉開始につき一致。
- 2012年11月 ASEAN関連首脳会議(於:カンボジア・プノンペン)の機会に、日中韓FTA交渉の開始を宣言。
- 2013年 3月 第1回交渉会合を開催(於:ソウル)。
- 2018年12月 第14回交渉会合を開催(於:北京)。
- 2019年 4月 第15回交渉会合を開催(於:東京)。
- 2019年11月 第16回交渉会合を開催(於:ソウル)。

3 交渉の現状

- 物品貿易、投資、サービスをはじめとする幅広い分野において、交渉を実施してきた。第13回交渉会合以降は、3か国ともに参加しているRCEP交渉が実質的に進展しているため、RCEP交渉の進展の現状を確認し、いかなる付加価値を付与することができるかを議論している。